

カリタスの家だより 連載 第28回

「東京カリタスの家」には子ども相談室というところがあります。この部屋は40年以上の歴史を持つカリタスの家に、設立して間もなくできました。その当時から子どもの発達に疑問を持ち、子育てに困り果て相談する場所を探し求めていた母親達がありました。特に自閉症は「母原病」という人もいます。～母親の子育てが悪いから～といった誤った考えによって母親を精神的に窮地(きゅうち)に追い込んでいました。現在では、育て方によるものではなく、脳の機能による障がいであることがはっきりしています。とは言え、それで母親の悩みが軽くなった訳ではありません。「どのようにわが子と接すればいいのか、どのように行動を理解すればいいのか、何を望んでいるのか……」などなど悩みは尽きないのです。子ども相談室ではそんなお母さんの悩みに耳を傾け、週1回の子ども達との関わりによって少しでもその重荷を一緒に担(かつ)げればと思っています。その重荷は決して軽くはならないと思いますが、また「この子とやっていこう」という希望のともしびを灯しつづけたいと思うからです。また、この障がいを理解しサポートしてくださる人達を増やしたいと切に願っています。そのためにセミナーを開催したり、遠足や合宿のボランティアを一般に公募したりしています。どちらともホームページでも見られますので、是非「東京カリタスの家～子ども相談室」にアクセスしてご参加ください。

ここで私自身のことを少しお話ししたいと思います。子ども相談室での活動は10年を超えましたが、どうしてこんなに続いているか不思議です。最初は子ども達の反応が分からず「私はあなた達の味方です。理解者です」と仮面をかぶっていてもそれはすぐに見破られました。顔だけでもにこやかさを保とうとしてもなかなかそうもいかないのです。「分からないけど、まずは一緒にいよう」と肩の力が段々と抜けてきて自然体で居られるようになった夏合宿の時、私は熱を出し布団をかぶって大部屋の隅で寝ていました。すると、ある男の子がひよいとやってきて私にプーさんのぬいぐるみを渡してくれたのです。何とも言えない温かな涙が溢れてきたのを今でもはっきり思い出します。

障がいの有無にかかわらず人を理解することはなかなかできません。しかし、今の状況を共有することは出来るかもしれません。イエス様の「これらの小さな兄弟達にしたことは、私にしたことだ」という御言葉をこころに秘めて、この子どもたちと共に歩むことが出来ますように、と願っています。そして、皆さまのご支援に感謝しています。 東京カリタスの家 子供相談室 鳴海京子